

美深町における地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業最終年度）

美深町地域公共交通総合連携計画の目標

美深町は、過疎化に伴う鉄路や民間バス路線の廃止によって、鉄道廃止代替バス、町営バス（スクールバス、福祉輸送）等で市街地と周辺の集落間の公共交通機関を確保している。人口の減少とマイカーの普及によりバス利用者数が減少し財政負担が増加しているため、効率的で利便性の高い交通形態の検討が課題となっているほか、高齢化の進行による市街地内での短距離移送の需要も高まっていることから市街地バス等の確立、「仁宇布線」におけるデマンド型運行の導入、スクールバス混乗路線の利便性の確保、「恩根内線」バスにおける利便性向上等により、需要に応じた効果的・効率的な公共交通の構築を図る。

23年度総合事業計画の概要

(1) 市街地フレックスバスの実証運行

運行期間 : H23.11.1～H24.3.31
 運行エリア : フレックス型(デマンド型)による運行
 南、東、北の3エリア
 停留所数 102か所
 運行本数 : 1日8便
 運賃 : 1乗車につき150円
 運行事業者 : (株)美深ハイヤー

(3) 観光事業への利用促進

町内仁宇布地区の観光における公共交通の利用実態把握及びPR

(5) 車両購入

フレックスバス[市街地] : 10人乗ワゴン1台
 デマンドバス[仁宇布] : 15人乗ミューター1台

(2) 仁宇布線デマンドバスの実証運行

運行期間 : H23.7.1～H24.3.31
 運行方法 : デマンド予約型運行
 運行エリア : 仁宇布、辺溪、東地区
 運行本数 : 1日5便
 運賃 : 距離に応じ200円～550円
 運行事業者 : 名士バス(株)

(4) 運行試験調査業務委託

実証試験中の乗車状況、利用者アンケートを実施
 デマンドバス、フレックスバス～各3回実施
 ～美深町シルバー人材センターに委託

(6) スクールバス利便性向上事業

スクールバスのフリー乗車及び増便を検討

美深町地域公共交通活性化協議会開催状況

H23.6.6 第1回協議会を開催 出席委員16人
【議事】 地域公共交通確保維持改善事業の実施について
 活性化協議会収支予算(案)について
 仁宇布線デマンドバスの実証運行試験について
 市街地フレックスバスの実証運行試験について
 ほか

H23.9.7 第2回協議会を開催 出席委員18人
【議事】 自家用有償旅客運送者の登録更新について
 ほか

H23.9.29 第3回協議会を開催 出席委員17人
【議事】 市街地フレックスバスの実証運行試験について
 ほか

(7) 利用促進策

バスの利用方法などについて、チラシ、回覧、防災端末などを活用して情報提供した

明日12月1日から有料運行
フレックスバス
 市街地を運行中のフレックスバスは、明日12月1日から本来の有料運行に変更しますのでお知らせします。乗車には、下記のとおり料金が掛かります。
1回乗車 大人150円 小人70円
 ただし、70歳以上の方は敬老バス提示で乗車無料となります
 11回乗車券(大人1,500円、小人700円)も販売しています
 【回券販売場所】
 バス車内、夜間(臨時または集合窓口)、
 コム1.0.0、観光協会(美深駅前)
 ご利用のご予約は下記へ電話
TEL 2-1661
 運行事業者: 美深ハイヤー
 お問い合わせは
 企画グループ2-1645・防災端末2-1611

防災端末掲載内容

23年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

協議会において、路線、時刻、運賃、バス停箇所などについて審議をして決定した〔仁宇布線、市街地〕

事業の周知のため、町内の高齢者大学での説明実施やPR用パネルを作製して公共施設等に表示した〔仁宇布線、市街地〕

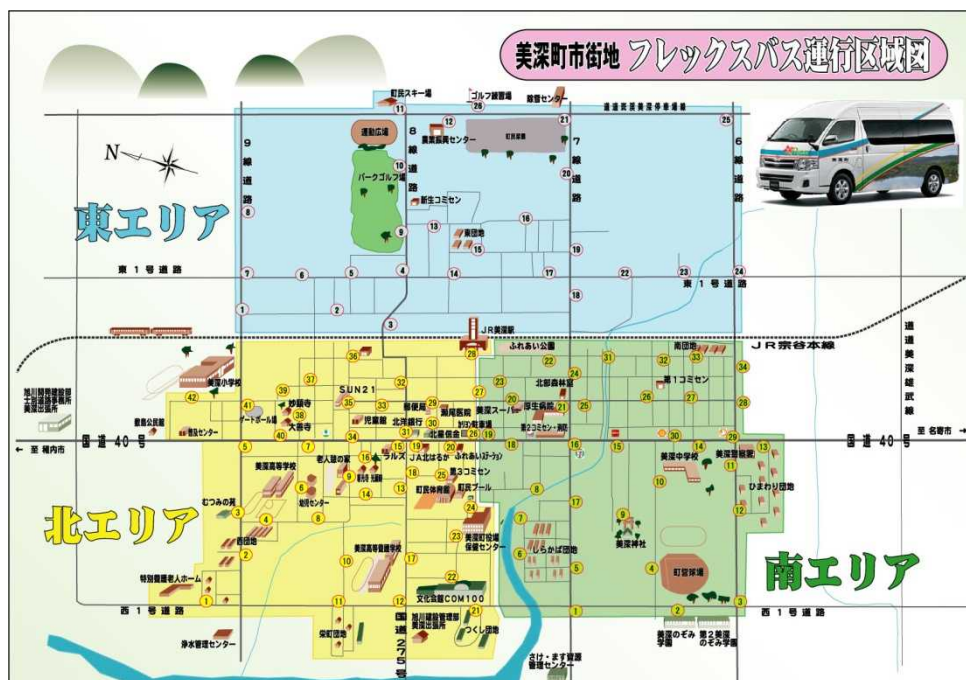
適時ローカル新聞紙に情報を提供し、運行に関する記事を掲載して利用をPRした〔仁宇布線、市街地〕

今年度全戸に設置された光ファイバー網による防災端末装置を用いて、運行の周知やPRを行った〔仁宇布線、市街地〕

短期間の実証であり、バス停設置等の経費を節減するため、布製のバス停を作成して設置した〔市街地〕

乗車時の混乱等緩和のため、回数乗車券や前売券を販売〔市街地〕

2) 運行エリア〔市街地フレックスバス〕



3) 市街地フレックスバスの利用実績

市街地のフレックスバスは、11月1日から運行を開始した。11月の乗車数は207人、1日平均7.7人と昨年のコミュニティバスの平均6.3人を若干上回る結果であったが、12月には大幅に利用者が増加し、利用者数は329人で前月比122人増、1日平均では12.2人で前月比4.5人増となり、昨年のコミュニティバスの約2倍の乗車数となっていることから一定の浸透が見られていると言える。

しかし、1便と8便の利用が極端に少なく、アンケート調査では9時、13時の運行や日曜日の運行を望む声もあることから、実施にあたってはダイヤ変更なども検討が必要。

アンケート結果によると、買い物利用が27%、通院が21%であり、当初の予想どおり高齢者等の日常の足としての利用が多いが、一方で、文化会館の利用や趣味のための利用なども26%あり、高齢者等の生きがいづくりにつながっていると考える。

心配された電話予約に関しても大きな混乱はなかった。

利用者のほとんどは継続運行を希望するとの結果が出ている。

平成23年11月 フレックスバス乗車状況

	1便	2便	3便	4便	5便	6便	7便	8便
敬老	3	18	35	34	30	36	37	5
子ども	0	0	0	0	0	1	1	0
大人	1	2	0	0	0	2	2	0

平成23年12月 フレックスバス乗車状況

	1便	2便	3便	4便	5便	6便	7便	8便
敬老	7	45	65	45	40	44	26	7
子ども	0	0	0	0	0	0	0	0
大人	5	6	17	7	3	8	1	3

4) 仁宇布線デマンドバスの利用実績

1日5往復の運行を基本に、予約に応じて玄関先から目的地までの送迎を行った。

7月から12月までの6カ月間の利用状況

乗車数 1,944人(前年同時期1,178人、伸び率165%)

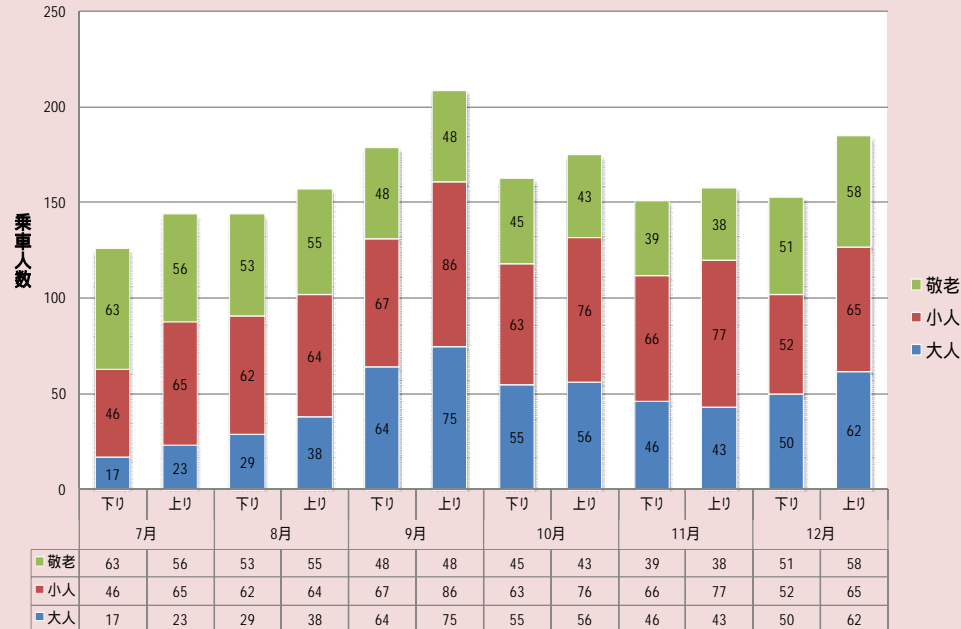
1日平均乗車数 12.3人(前年同時期7.5人)

乗車数は大幅に伸びた。しかし、増えた要因としては幼児センターの通園(小人789人)によるところが大きい。その分を差し引くと概ね前年度と同様の乗車数となった。

一方で往復とも運休した割合をみると、全790便のうち222便の予約がなく運休(運休率28.1%)しているため、車輛運行経費の一定の節減につながった。

また、夏期間には仁宇布地区の観光施設(主にトロッコ王国)に延153人の利用があった。地域の観光振興の面からも重要な路線であると考えられる。

仁宇布線デマンドバス乗車数集計



5) 車両の購入

交通サービス用車両を新規購入し、実証運行を行った。

(1) 市街地フレックスバス用車両

10人乗りワゴン 1台

[装備] パワースライドドア、事業用ワンマンバス改造
車両外装加飾 ほか 一式

納車日 平成23年10月28日



(2) 仁宇布線デマンドバス用車両

15人乗りコミューター 1台

[装備] パワースライドドア、事業用ワンマンバス改造
車両外装加飾、行き先表示盤 ほか 一式

納車日 平成23年10月26日



6) 収入実績

市街地フレックスバスの運賃設定については、協議会において審議し、昨年の実績を踏まえて設定した。

美深町においては従前から高齢者に対し敬老バス乗車証の交付を行い、バス乗車が無料となるよう助成していたため、フレックスバス、デマンドバスのいずれの実証も同様に取り扱わざるを得なく、運賃収入増に結び付かなかった。

幼児の料金についても昨年の実績を踏まえ無料として取り扱ったため、デマンドバスは利用が増加したにもかかわらず、収入増にはつながらなかった。

フレックスバスの運行開始月の11月は体験期間とし、気軽に乗車してもらうことを重点とし無料で運行した。

[運賃実績]

市街地フレックスバス	5,470円(12月分)
仁宇布線デマンドバス	173,570円(7月～12月)

7) 事業実施効果

実際に車両が運行したことによって、まちづくり懇談会等で話題に取り上げられるなど住民の公共交通に関する関心が昨年よりも高まった。

以前から、住民や議会から要望の高かった市街地のデマンド型交通サービスを実証することができ、昨年の循環型よりも利便性の高い運行形式に対して、利用者から一定の評価が得られている。

フレックスバスは、ハイヤー利用者以外の新たな交通利用者の掘り起こしにつながった。

実証によって、高齢者等の交通弱者が病院や商店への移動の他に文化活動参加の際にも多く利用されていることが明確になった。

運賃に関して大きな不満は聞かれないことから、設定が概ね適切であったと評価できる。

8) 今後の課題

仁宇布線デマンドバスは予約方法について課題はあるものの、地域住民には概ね浸透しており、スムーズな本運行移行が可能と考える。

フレックスバスは冬期間の需要については概ね把握することができたが、本運行に向けては夏季や夜間、日曜日の運行の必要性などについて更に検討を進める必要がある。

フレックスバスは、評価時点までに降雪や除・排雪によって運行に大きな影響を受けていないことから、寒冷・豪雪の当町においても有効な運行方法と判断できる。

小型車両を導入したため、今後さらに利用者が増加した場合にスムーズな運行が確保できるか課題である。

今年度は実証であったため、人件費や車両準備費などの運行委託経費が予想より高額となった。本格運行にあたっては事業者における費用の圧縮を促しつつ実施する必要がある。

市街地フレックスバスは最終的に町以外の事業者による実施が望ましいため、参入できる事業者の育成等を早急に考える必要がある。

自己評価のポイント

- ・コミュニティバスは本格運行に向け11月より1日8便の実証運行を行っており、住民の新たな足となる交通サービス構築に努めている。今後は利用者からの改善要望にどう対応していくか、検討を要する。
- ・デマンドバス(仁宇布線)は住民の利便性向上及び地域の足の確保を目指し、7月より実証運行を行い、本格運行に向けて必要な検証を行っている。
- ・それぞれの実証運行について、利用者数の把握、アンケート調査の実施等により、利用者ニーズの把握・分析を行ったことで、事業の適切な評価をすることができた。
- ・今年度全戸に設置された光ファイバー網による防災端末装置を用いて、運行の周知やPRを行った。

二次評価のポイント

- ・自己評価のとおり。
- ・自立性・持続性を考慮した取り組みが行われ、本格稼働に向けた必要な検証が行われており、今後の地域に適した交通体系の構築を期待する。
- ・デマンドバス(仁宇布線)については、観光施設であるトロッコ王国を訪れる際に利用するケースが多い。観光振興という視点から町やトロッコ王国を運営するNPO法人のHP等を活用し、広くPRすることも有効と考える。